



国際化の最前線から



地域資源を活かした「観光、食、モノ」のグローバル・ブランディングとプロモーション

岐阜県観光国際戦略アドバイザー 古田 菜穂子

私が長年手がけてきた仕事に「岐阜の宝ものプロジェクト」がある。これは地域に内在するさまざまな資源を「見つけ」、「磨き」、「発信」し、地域資源を「光」として観光資源化させる事業である。「地域資源＝原石」を磨き、他のさまざまな資源とつないで地域の宝ものにする

ことにより、人々も輝き、その光に吸い寄せられるように国内外から人が集まり、結果、さまざまな人、コト、モノによる経済交流や循環が生まれ、有形無形



ニューヨークでの観光と日本酒キャンペーン。中央が古田肇岐阜県知事

の「ベネフィット・benefit」が得られることを目指してきた。それが“光を観る、魅せる（観せる）”タイプの新しい観光産業化につながると考えてきたからだ。

こうして足かけ12年強、地域資源を活かした国内外に通用する着地コンテンツの観光資源化とともに、観光、



シドニーでの岐阜県プロモーション。地歌舞伎メンバーも加わって

食、モノづくりを一体化したパッケージブランディング手法で、現在までに17か国での岐阜県プロモーションを行ってきた。そこで大切にしているのは、真の

岐阜県ファンを海外現地につくることである。

そのために岐阜県のモノを継続販売していただけるGAS（グローバルアンテナショップ）という現地ショップを世界8か国に13店舗、そして飛騨牛など県の食を味わえるミシュラン星付きレストランなどを12か国51店舗、各国に開拓してきた。これらの店舗開拓には

職員とともに現地に赴き、交渉は常にface to faceで行ってきた。またショップオーナーには、必ず事前に岐阜県を訪問していただき、モノや食の背後にある観光の物語を実感して貰うよう努めた。現地の方の岐阜県への理解と愛情があってこそその継続的なプロモーションにつながるからだ。



ロンドン老舗百貨店での観光と県産品の販売プロモーションにて

このように行政は、さまざまな事業エンジンをかけることはできるが、一方で重要なのは、地域の人、コト、モノなどの資源が「本物」であり続けることだ。そして地域ならではの経済循環と、地域の人々にとっての「やり甲斐」、「生き甲斐」につなげ、互いに「信頼」を生む関係を紡ぐことである。

ポストコロナと言われている今だからこそ、各国の人々と、観光や、食、モノづくりを通じて、互いの固有な生き方や地域の文化、歴史、伝統を理解し合い、感謝し合い、贈与型経済としての新しいスタイルの“本物”の経済循環と交流が求められていく。そんな未来は決して悪くないはずだ。そうありがたい、あるべきだと私は信じている。

プロフィール

古田 菜穂子（ふるた なほこ）
岐阜市出身。2009年、民間登用で岐阜県観光交流推進局長に就任し、地域資源の磨き上げによる観光・食・モノのパッケージブランド戦略により主要国からのインバウンド宿泊数を飛躍的に上昇させる。現在サステナブル・ツーリズムを主眼とした観光プロデュース、人材育成、国内外での販路開拓ディレクターなどで活動中。兵庫県立大学大学院特任教授。